2004.3月25日　Vol.7

e環境まちづくり会報

編集・発行／入間市環境まちづくり会議

ごみ減量や街の美化に強い熱意
—ごみ部会—

昨年六月に行われた環境まちづくり会議総会において、会員が協力して環境問題に取り組むための機関として「ごみに係わる行動の会員部会」の設置が議決されました。これを受けて、入会希望者により二月まで都合四回の会合が持たれ、部会の目的や活動内容について活発な議論がなされてきました。

当初は不定期であった会議の開催も、この三月からは毎月一回の定例会を開くことが決定されるなど、少しずつではありますが部会としての骨格が固まりつつあります。

現在は部会としての活動計画を決定する前段階として、各会員からごみの減量や街の美化を始めとする入間の環境問題について、情報の提供・問題点の指摘・具体的な活動の提案を募っている状況です。自由な雰囲気のなか、様々な視点から数多くの意見・アイディアが出され、改めて会員の方々の環境問題への関心の高さと熱意を認識している次第です。

当部会が身近な環境問題について共に「考え・学び・提言し・実践する」部会として、環境にやさしいまち入間市の実現のために確かな役割を果たしていけるものと期待しています。

新井格　ごみ部会

16年度
入間市環境まちづくり会議

総会 開催

- 5月28日(金)午後2時〜
- 入間市産業文化センターにて

▼自然の保全と美化を
市と市民ボランティアが協力して里地づくり

あなたもまちと自然のお医者さんに！

第1回全国環境再生医シンポジウムin入間

日時／平成16年5月15日（土）〜16日（日）午前10時から
場所／入間市農村環境改善センター
主催：NPO法人自然環境復元協会
共催：入間市環境まちづくり会議、NPO法人荒川流域ネットワーク、NPO法人加治丘陵山林管理グループ、加治丘陵さとやま探検隊、アポポ商店街振興組合、霞川をきれいにする会ほか

プログラム
1日目／＜講演＞「元気な入間のまちづくりと環境再生」
（木下博入間市長）
「スイス・ドイツにおける環境再生」
（山脇正俊スイス・チューリッヒ工科大講師）
「わが国における自然環境復元活動の経緯と今後の展望」
（杉山恵一静岡大名誉教授）
＜ワークショップ＞入間川、霞川を例とした水辺の再生
加治丘陵里山計画を例とした里山の再生
アポポ商店街を例としたまちの再生など
2日目／＜現地見学会＞
入間市加治丘陵　入間市アポポ商店街　所沢市三富新田など
申し込み・問い合わせ：NPO法人自然環境復元協会
TEL /FAX 03－3813－0252
http://www.narec.or.jp

第3回　環境市民講座

平成16年度環境市民講座を、去る、1月24日（土）と、2月7日（土）の2日間にわたり、東京電力株式会社川越支社のご協力のもと、扇町屋公民館大会議室において開催いたしましたので報告いたします。

初回の1月24日（土）は、「尾瀬の自然保護を通じた環境講座～人と自然の共生の取り組み～」と題し、同社用地部水利・尾瀬グループの竹内純子氏に、ご講演をいただきました。

午後2時から午後4時という、最も睡魔が襲う時間帯でありながら、舟を漕ぐような方も無く、26名の参加者は尾瀬の魅力に引き込まれたように熱心に聞き入っていました。

2日目の2月7日（土）は、同社川越支社渉外・広報グループの長谷川由美子氏により、「でんこちゃんの省エネのコツ教えます～あなたの一工夫が、家計にも地球にも優しくなります～」と題し、約1時間半にわたりご講演をいただきました。

電気のい・ろ・はから、私たちができる省エネのコツについて、いろいろ伝授いただき、お財布にもやさしいというとってもお得なお話を聞くことができました。

今回の講座内容が、自然への興味を強く引かれるものと、私たちの生活に身近な省エネというお話であったためか、多くの方から閉会時間を延長するほどの質問があり、参加者の関心の高さを窺い知ることができました。

両日とも冬の穏やかな晴天に恵まれ、和やかなうちに終了することができました。ご協力いただきました皆さん大変ありがとうございました。

大気汚染や地球温暖化防止を!!

アイドリング・ストップ

（自動車を駐停車のとき、エンジンストップ）

アイドリング・ストップのアンケートを実施しました。

皆さんは、アイドリング・ストップ条例をご存知ですか。入間市で、条例が施行されてからまもなく2年が経過します。そこで、市と入間市環境まちづくり会議では、啓発も兼ねて2月12日（木）～2月20日（金）アイドリング・ストップの実施と条例の周知の状況についてのアンケート調査を行ないました。集計の結果をお知らせします。

▲アンケート調査（市役所駐車場にて）

○アンケートの集計結果

入間市にアイドリング・ストップ条例があることを、知っていましたか

回答	人数
その他	3
知らなかった	119
知っていた	164

アイドリング・ストップの看板を、見たことはありますか？

回答	人数
その他	5
意識してみたことはない	52
あまり見かけない	89
よく見かける	141

あなたは、アイドリング・ストップを実行していますか？

回答	人数
その他	13
あまり実行していない	50
ときどき実行している	69
実行している	153

アイドリング・ストップを広めるには、どうしたらよいと思いますか？

回答	人数
その他	40
広報紙等に掲載する	103
看板を設置する	164

○回答者の内訳／男性135人（47%）　女性123人（43%）

環境紙上ウォーキング

五感を使って

自然は
景観は
水質は
ゴミは

◎不老川／家庭からの排水による汚濁

◎こんなに必要？飲料自販機。大量生産、大量消費、大量廃棄の象徴

◎民家近くに不法投棄の残土

◎健康福祉センター北側の林、市民ボランティアにより親しみやすい林に

◎ゴミ捨て禁止の看板付近にもゴミが

◎この地域は、いたる所にゴミ捨てが

◎看板が目立つ道路沿い、街の景観は

「地球は怒っている」

(社)埼玉県地区衛生組織連合会（横田敬二会長）が主催して、2月5日、平成15年度中央研修会が埼玉県庁講堂で開催された。

研修のメインは、(社)全国地区衛生組織連合会会長である愛知和男氏（元衆議院議員・環境庁長官）の環境問題について、「地球は怒っている」と題した講演であった。

愛知氏は、『地球に害を及ぼしている人類、その人類が増えすぎ、そして地球が与えてくれた条件を超えた生き方をしている。だから、地球は怒り、干ばつや洪水、冷夏、異常高温などの異常気象、そして、疫病などをもたらし、人類を地球上から抹殺しようとしている。「地球を救おう」などという人間の思い上がりを改め、地球の怒りを静めるため人口増加を食い止め、一人ひとりの生活スタイルを変える必要がある』と講演し、地球の問題ではなく人類存亡の危機だと述べた。

愛知氏は、平成14年に環境問題に取り組む市民団体と「環境教育・環境学習推進法をつくろう！推進協議会」を立ち上げ、翌年7月国会で成立した「環境の保全に関する意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」に尽力している。

会員の声

入間川・岸辺のアルバム
～岸辺から見えてくるもの～

私は二年ほど前から毎朝1時間程度、住まいに隣接する文化創造アトリエアミーゴや入間川周辺のゴミを拾っています。

川岸のゴミが最も増えるのが、これからの春から夏にかけての季節。河原でバーベキューをした後の食べ残しに飲み物の空きビンやペットボトル、花火を楽しんだ後の燃えカスなどが特に目立ちます。

雨が盛んな梅雨や台風の時期になると、上流から大型ゴミが流れてきます。畳、サッシの枠、タイヤに盆栽など枚挙にいとまが無いほど様々なものが下流へと押し寄せてきます。おそらく、上流に捨てられていたこれらの大型ゴミが大雨による水量の増加によって、一挙に下流へと押し流されてきたものと思われます。

最近になって新たに目立ち始めたものと云えば、動物の死骸です。飼育ケースごと捨てられたハムスター、首輪をつけたままの猫の死骸。つい先日までは家主に可愛がられていたと思われるペット達が、死んだとたんにこのような扱いをされるとは……胸が痛む光景です。また犬の糞がビニール袋に入れられた状態で捨てられているのも散見します。散歩中の糞をビニール袋に回収するまでは良いのですが、これを家にまで持ち帰るのが面倒なため、人目を忍んで川に捨ててゆくのでしょう。

心が痛む光景といえば、入間川が豊水橋と交わる河川敷のあたりには、たくさんの愛玩動物が捨てられています。去勢・不妊手術済みの猫や人に慣れている犬など、その殆どが人に飼われていたと思われるものです。

私たち人間は、太古より川からの多くの恵を受けて生きてきました。その川が一部の心なき人々のためにゴミ箱となりつつある現状には大きな危惧を感じざるを得ません。

〝環境にやさしいまちづくり〟という環境まちづくり会議の趣旨が多くの市民に伝わり、入間川の清流が回復されることを願ってやみません。

仏子　新井馨

過去・現在・未来

私が幼少の頃育った下藤沢（今は東藤沢）は当時自然が多く、武蔵野の面影を色濃く残す、そんな風情のある景色が広がっていました。家は狭くて庭も無いに等しいものでしたが、目の前には雑木林が有り近くには林川が流れ、木登りをしたり虫取り、ザリガニ取りをしたりと日が暮れるまで毎日そこで遊んでいました。この頃の体験はかけがえの無いものであり、後の自己の形成に随分役立ったと思います。今となっては林や森は住宅や駐車場となり、川は土管の中に埋もれてしまいみる影もなくなっています。

近代化という時代の流れで仕方の無いことなのかもしれませんが、失われたものの方が大きいような気がしてなりません。現在は豊岡に住み、家の周りを見渡してもアスファルトとコンクリートばかりで土や草木の匂いをかぐことはまれです。近くに大きな公園ができましたが、あくまで人工の造作物で、そこから学ぶことは私が大人になったせいかもしれませんが、少ないように思えます。

先日、環境ウォークで霞川を下りました。ゴミが捨てられていた所は少なく、小魚の群れがいたり大きな鯉がいたりと地域住民の方々の尽力により自然は保たれていたようです。しかし一ヵ所汚水が大量に流れ込んでいた所があり、明らかにそこからは川の水は澱みだし透明度が減っていきました。川の立場から環境を考える必要性も痛感しました。今後、入間市と狭山市が市町村合併を目指していくことになりましたが、是非この入間市環境まちづくり会議でも、どうしたら環境が良くなるかを新しくなる市に働きかけていってほしいと思います。私たちの子供や孫ひ孫たちの未来を奪わないように。

吉村　直樹

■会員の皆さんの声を募集しています。

編・集・後・記

早いもので今年度最後の会報となりました。この間様々な環境に関する会議や行事に参加してきて、わたし自身大変勉強になりました。環境を考えるとき、本当に一方向からの見方では解決できない難しさがありジレンマもあります。でも、もう今何か始めないと手遅れになってしまう危機感を感じさせられた一年でした。では、5月総会でお会いしましょう。

〈二ノ宮〉

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住　所：〒358-8511　入間市豊岡1丁目16番1号
ＴＥＬ：04-2964-1111(内線1241.1243)
ＦＡＸ：04-2965-0232
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp

●会員数
429人

内訳	人
市民	183
事業者	169
民間団体	50
行政関係	27